

# 本当の「キャプテンシー」とは何か？

今まで先生はたくさんのキャプテンを見てきました。圧倒的な競技力で、チームを引っ張っていくキャプテンもいました。しかし、毎年そうであったわけではありませんでした。今までで、一番印象に残っているのはMくんです。Mくんは短距離パートに所属していましたが、どちらかと言えば体も小さく競技力に優れてはいませんでした。キャプテンを決める話し合いで、みんなの総意で彼に決まりかけた時に「僕は足も遅いし、試合に出ることもあまりない選手です。この陸上部は、全国に出る人も毎年のようにいるし、大阪の総合優勝を常に狙うチームなので、強い人がキャプテンになってみんなを引っ張っていく方がいいと思います。」と言って、固辞したのです。結局、しばらく話し合った後、Mくんがキャプテンを引き受けることになりました。次の日から、彼はチームの裏方に徹しました。誰よりも早くグラウンドに出て練習の準備をしました。一番人がしたがらない準備をあえて彼がやっていたように見えました。決して、上から偉そうにモノを言うこともありませんでした。準備や後片付けがいい加減な人がいたら、「とんぼをかけるのを手伝って」と声をかけて、自分の持っていたとんぼを渡して、自分はもっと力のいる仕事を選んだりするようなこともありました。試合の時はいつも場所とりのために、重いシートを運んでいました。彼の人柄でしょうか。彼の裏方の仕事を手伝う部員の数も少しずつ増えてきました。一度、彼が400mに出場した時も平凡な記録で予選落ちでしたが、最後まで手を抜かず、歯を食いしばって走りきる彼の姿が印象的でした。ゴール後、スタンドにいるチームメイトからの拍手が大きかったのをよく覚えています。

その年は、夏の中学選手権に女子総合優勝。女子のリレーチームも全国大会に出場するなど、圧倒的な強さを誇り、試合で一度たりとも負けたことはありませんでした。3年生の引退試合となる10月の秋季総体大阪大会2日目。最終種目の400mR決勝。女子は予想どおりの圧勝。男子決勝。その年、男子のリレーチームは夏の選手権では準決勝落ちのチームでしたが、オーダーを代える作戦が見事にあたり決勝進出。このレースも7番通過でありながら、何と3位入賞。チームとして、すばらしいフィナーレを飾ることができました。続く閉会式。総合の部で男子が総合2位と発表されました。(女子は総合3位でした。)表彰式では、Mくんが直立不動の姿勢をとり、深々と頭を下げて賞状を手に入れました。

表彰式のあと、彼に「今までよくがんばったな。おまえがいたからこそ、こんな立派な成績を残すことができたよ。」と、声をかけると彼はせきを切ったように泣き出した。男泣きである。最後の引退ミーティングでも、声をつまらせながら、「自分はキャプテンをやらせてもらって、本当によかったと思います。ありがとうございました。」ともう一度、深々と頭を下げた。その言葉にもらい泣きをする者もいた。全員が心から大きな拍手を贈った。

# 今が正念場！東雲中陸上部の命運は君たちにかかっている！！

どんなにすばらしいリーダーシップを発揮しても、まわりの人の協力なしにはキャプテンは育たない。結局、リーダーを生かすも殺すもみんなの心がけしだいなのです。とりわけ現在のところ、新チームはチームとしての総合力ははっきり言って低い。でも、みんなで強い心で練習すれば、東雲中陸上部の新しい伝統の扉は必ず開かれると思っています。新チームになったとき、2年生、1年生ひとりひとりの自覚と行動が絶対に必要なのです。2009年度も全国へ、近畿へ、そして大阪や三島で総合優勝できるチームを目指しましょう！